

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視 点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①特色ある国際理解教育と「総合的な探究の時間」に係る研究と実践をとおして、探究的でグローバルな視野を持つ人材を育成する。</p> <p>②「育てたい生徒像」を見据え、共通性と多様性のバランスに配慮した教育課程の策定と実施を図るとともに、特別活動の充実をめざす。</p> <p>③「主体的・対話的で深い学び」をめざし、授業改善を実施する。</p> <p>④基礎的基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視し、主体的に学習に取り組む態度を養う。</p>	<p>①特色ある国際理解教育を発展させ、積極的な教育活動を行う。また、姉妹校との交流を実施する。</p> <p>・総合的な探究の時間において、SDGsに係わる探究活動の継続を図る。探究活動により広い視野を持った人材を育成する。</p> <p>③④「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業改善を行い、生徒の思考力・判断力・表現力を育成するとともに、学習意欲と自主性を伸長する。</p>	<p>①ユネスコスクールのネットワークを用いて様々な活動に積極的に参加する。また、6月のアサトン高校来校、3月のドンウオン高校訪問に向けて準備を行い有意義な交流を行う。</p> <p>・総合的な探究の時間において各学年担当者が中心となり、全教員が探究の授業を実践できる計画を立て、SDGsに係る探究活動を展開する。</p> <p>③④学校全体で「主体的・対話的で深い学び」型の授業実践を目指した授業見学や研究授業を計画することで、授業改善への意識改革を図るとともに参加者の研修成果に繋げ、生徒の思考力・判断力・表現力を育成する。</p>	<p>①ユネスコスクールのネットワークを用いた活動に年5回以上参加することができたか。</p> <p>また、姉妹校交流について事前・事後指導から成果物の作成をすることができたか。</p> <p>・総合的な探究の時間について、各学年の担当者が計画を立て、全教員が授業を実践できる計画を立案できたか。</p> <p>③④授業評価の結果、「思考力、判断力、表現力が高められたか」の値が7割を超えているか。</p> <p>・テーマを設定した研究授業を行い、意見交換ができたか。また、研修成果を共有できたか。</p>					
2 生徒指導・ 支援	<p>①部活動の充実をとおして自己理解や他者理解を深める支援を行う。</p> <p>②交通安全指導を通してマナーの向上と事故防止に取り組む。</p> <p>③人権尊重の精神および規範意識を高める取組を推進する。</p> <p>④生徒一人ひとりの個に応じた生徒支援体制の確立を図る。</p>	<p>①部活動を活性化し、活動をとおして生徒の人格形成の支援を行う。また、自己肯定感を高めるとともに他者理解を深める支援を行う</p> <p>③生徒の規範意識を高めるための取組を組織として実践する。</p> <p>④生徒一人ひとりが置かれている状況を把握するとともに家庭と連携した支援を行う。また、教育相談をとおして組織的に生徒を支援できる体制を構築する。</p>	<p>①生徒の主体的な活動の促進と部活動加入率を上げるための働きかけの強化を行う。また、部活動全体での礼儀や挨拶励行の働きかけを通して部活動に対する誇りや意識の高さを持てるよう「自負心」を養う。</p> <p>③HR活動、学年集会、学校行事、登校指導などあらゆる機会において、規範意識の向上に繋がるよう教職員全体で指導を行う。</p> <p>④いじめアンケートや面談をとおして生徒一人ひとりの把握に努め、ケース会議、SC、SSW、家庭との連携を図りながら個に応じた支援を行う。</p>	<p>①1年生の部活動加入率が7割を超えたか。また、部活動調査において、自分の活動に誇りをもって行っていると答える生徒の割合が9割を超えたか。</p> <p>③生徒の問題行動、服装・頭髮指導の件数が昨年度より減少し、規範意識の向上が見られたか。</p> <p>④個々の生徒に応じた支援が組織的に行われ、適切な支援を行うことができたか。</p>					

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①大学等における多様な入試形態を見据え、生徒一人ひとりの進路希望実現に向けたきめ細かな支援体制を充実させる。 ②教科における学習活動と進路指導との連携を図り、生涯にわたって基盤となるキャリア教育を実施する。	①新課程直前の入試動向情報を的確に把握し、3学年だけではなく2学年についても情報を共有して生徒の希望進路の実現に向けた支援を行う。 ②本校生徒の入試に向けた課題を共有し、教科指導と連携を図り進路の支援を行う。	①進路指導室を整備し、相談体制を充実させる。また、大学等入試担当者を招聘した相談会を開催する。 ②外部試験を年4回実施し、学力の伸長と定着を図る。試験の結果分析会を通して生徒個人々の課題を認識させ効率的な学習を進めるための機会を提供する。	①進路室の環境整備ができたか。入試担当者による5大学以上の相談会を実施できたか。 ②試験結果分析会を実施することができたか。また、それを踏まえて生徒個人々に学習課題を提示することができたか。					
4	地域等との協働	①生徒一人ひとりが社会参画意識をもって地域や世界とつながる意識を高める支援を行う。 ②地域等と連携・協働した災害への備え、対応をさらに深める。	①学校周辺の美化活動や地域貢献活動を実施し、地域に愛される学校を目指す。 ・部活動や個人でのボランティア活動や地域への貢献活動を通じて、社会の一員としての意識を醸成する。 ②DIG 研修や避難訓練、地域の行政機関と連携した防災体験訓練をとおして災害に対する防災意識を高める。	①各学年で年1回、学校周辺の美化活動を行う。また、各部活動や委員会活動ごとでも、地域のゴミ拾い活動を実施する。 ・近隣の小学校への部活動の派遣や、海老名市との連携を行い、地域との連携を積極的に図る。ボランティア活動への参加を促し、多くの生徒が社会の一員としての意識を持てるようにする。 ②避難訓練、DIG 研修、防災体験訓練を行い、自己の命を守る行動と他者に対する支援等「自助・互助・公助」の防災意識を高める。	①各学年で年1回、学校周辺の美化活動を実施することができたか。部活動や委員会ごとでも活動を実施することができたか。 ・近隣の小学校など地域との連携事業の回数が10回を超えたか。 ・ボランティア活動調査で参加率が全校生徒の1割を超えたか。 ②避難訓練、DIG 研修、防災体験訓練後のアンケートで「自助・互助・公助」を意識した生徒の割合が7割を超えたか。					
5	学校管理 学校運営	①ICT環境の整備改善を進めるとともに、HP等を活用して本校の教育活動に係る情報発信を充実させる。 ②安心・安全な教育環境の整備を充実させるとともに、事故・不祥事防止のさらなる徹底を図る。 ③働き方改革の推進に向けて、組織的な取組を進めていく。	①ICT環境の整備改善を進め、教職員の機器活用のスキルアップを行う。 ・HPをとおして本校の教育活動に係る情報発信を行い、保護者及び県民に開かれた学校を目指す。 ②生徒・教職員が安心して安全に過ごせる教育環境整備を行う。 ・事故及び不祥事防止の徹底を図り、信頼ある学校を目指す。	①ICT環境の整備改善を進め、機器の管理と運用方法を新たに構築する。 ・機器の有効活用を目指した研修会を複数回実施する。 ・職員へHP更新を周知するとともに、定期的な更新の声掛けを行うことで本校の教育活動に係る情報発信を行う。 ②年2回の学校施設点検を実施し、速やかな修繕対応を行い、事故のない環境整備を行う。 ・管理職による声掛けや研修等で事故・不祥事を未然に防止し、保護者や県民から信頼される学校づくりを行う。	①事故防止を意識した管理体制・運用方法への改善ができたか。 ・年に2回以上の研修会を開催できたか。また、8割以上の教員がICT機器を活用した授業を行ったか。 ・行事ごとにHPを更新することができたか。また、その他の活動についても高頻度で更新が行えたか。 ②学校施設設備点検後の対応をすることで、未然に事故を防ぐことができたか。 ・年間に事故・不祥事がゼロであったか。					

